

安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画
策定・評価委員会 会議概要

- 1 会議名 令和4年度 第1回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
- 2 日時 令和4年6月23日(木) 午前9時30分から午前11時30分
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 3階 共用会議室 307
- 4 出席者 磯野会長、細川副会長、土肥委員、二村委員、水原委員、大澤委員、山田委員、小澤委員、川崎委員、桜井委員、長澤委員、森岡委員 計12名
- 5 市側出席者 山田市民生活部長、地域づくり課 保科課長、金子係長、平林主任、藤原主任
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和4年6月30日

協 議 事 項 等

1 会議項目

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 自己紹介
- (4) 報告事項
 - ① 協働のまちづくり推進基本方針及び同行動計画について
 - ② 令和4年度市民活動サポートセンター事業計画について
 - ③ つながりひろがる地域づくり事業補助金アンケート調査結果について
- (5) 協議事項
 - ① 第3次計画策定に向けた基本方針について
 - ② 先進地視察研修について
- (6) その他
- (7) 閉会

2 報告・協議事項概要

- (1) 報告事項
 - ① 協働のまちづくり推進基本方針及び同行動計画について
※事務局から現計画の概要について説明。(質疑等なし)
 - ② 令和4年度市民活動サポートセンター事業計画について
※事務局から令和4年度市民活動サポートセンター事業計画について説明。(質疑等なし)
 - ③ つながりひろがる地域づくり事業補助金アンケート調査結果について
※事務局から、補助金見直しに向けたアンケート調査結果について説明。

【委員】

- ・つなひろの目的やどういう人たちに活用してほしいか、つなひろのねらいを明確にし、見直すことが大切。申請件数が増えれば良いではない。
- ・企業や社協などでも補助金制度があり少額なものもある。他の補助金とのすみ分けも必要。

- ・塩尻市では、補助金を見直し、少額でスタートアップを目的とした「トライアル事業」と自立に向けた「ステップアップ事業」の2段階の補助金を用意している。ステップアップでは人件費も対象経費となっている。

【事務局】

- ・市内19市や社協等で様々な補助金がある。情報共有しながら、すみ分けをするなど、良い仕組みを検討したい。

【会長】

- ・行政は、補助金だけでなく、市民活動を総合的にサポートしてほしい。

【委員】

- ・「申請手続きが面倒」や「高齢になり、事務処理負担に耐えられない」といった意見に同感する。いかに簡素化して目的を果たせる内容にするかは、工夫次第でできると思う。
- ・食糧費は対象外なのか。

【事務局】

- ・事業で使用する食材などは対象だが、会員のお弁当などは対象外となる。

【委員】

- ・他市では、登録団体は、公民館等を無料で使用できるところもある。施設利用費用も積み重なると負担が大きい。金額の支給だけでなく、今ある資産の活用という支援も一つだと思う。

【委員】

- ・過去につなひろを活用した団体は、構成員数が多く、活動拠点が団体の事務所が多いのに対し、つなひろを活用したことが無い団体は、構成員数が少なく、活動拠点は自宅が多い。
- ・後者は自宅で文化的な実践をされていて仲間内で高齢者が行っている活動というイメージで、前者は団体活動として事務所をもっている。そもそも一緒に論じていいのか気になった。前者の活動も素晴らしい活動だが、それで面倒だからつなひろを活用しないのはそれで構わないのではないか。
- ・高齢者の文化的な実践に下の世代が入っていくことは可能なのだろうか。下の世代から新しいものが生まれるような形が健全だと思う。
- ・アンケート調査項目に無いが、過去につなひろを活用した団体の活動カテゴリーの情報はるか。

【事務局】

- ・大きく差異は無かったと思うが、過去に活用した団体の活動カテゴリーは調べればわかると思う。

【副会長】

- ・つなひろが有効に活用されていて効果が出ていると読み取れる。
- ・会場で不自由している面が見られる。例えば市内99の地区公民館を減免して使用できるようにするといったことも選択肢の一つとして考えられるかと思う。
- ・これから活動の継承が課題となる。現状、同団体が同事業での申請はできないが、若い世代が引き継いだ時に、つなひろを使える仕組みも検討してはどうか。例えば10年経過後なら、同じ事業でも申請可能とすれば、世代交代の助けになるのではと思う。

【委員】

- ・団体の裾野を広げていくという意味では、違う団体同士がつながっていく必要がある。サポートセンターでは、今後一層つなげていくというコーディネートが必要になってくると思う。

～～～ 休憩 ～～～

(2) 協議事項

① 第3次計画策定に向けた基本方針について

※事務局から第3次計画策定に向けた市民アンケートの実施、スケジュール等について説明。

【委員】

- ・計画の策定は来年度中だが、現委員の任期は途中で切れてしまう。
- ・計画の策定まで委員が携わることができれば、目標が見えるので委員の意欲も違うので対応をお願いしたい。

【会長】

- ・委員会の中では時間が足りないので、別途委員が自由参加の学習会を開催している。その場でも様々な意見交換しながら進めていけると良い。

【委員】

- ・次期計画には「安曇野らしさ」を反映し、シンプルな計画となるよう検討してほしい。
- ・「安曇野らしさ」は、現在取り組んでいる「ゆるくつながる交流会（「ゆるつな）」や「市民活動フェスタ」などから、市民活動がわかりやすく伝えられると良い。
- ・「これが安曇野の協働だ」、と自分事に捉えられる表現ができると良い。
- ・前半は思いを全面に出して、方針、目的に対する取組をもう少しシンプルに表記し、後半で「協働とは」など補足説明を入れる形が見やすく、評価もしやすくなるのではないか。

【委員】

- ・計画の名称は「協働のまちづくり」だが、コンセプトは「つながりひろがる」ことである。
- ・金銭的支援も計画に具体的な施策として位置付けるべきである。
- ・つながりは縦にも横にもつながること。縦のつながりには後継の課題がある。横のつながりは団体間の連携がある。このつながりを促す仕組みを補助金に組み込むことも必要でないか。
- ・拡大ではなく維持が目的の団体にも金銭的な支援が必要である。

【委員】

- ・令和7（2025）年度は団塊世代が後期高齢者になる。福祉系部署の計画との横の連携をしながら策定を進めていくのが良い。

【委員】

- ・第3次計画策定に向けて叩き上げの部分である骨子案が一番重要だと思う。この骨子案の部分の話し合いが今年度あるのかどうか。骨子案の部分の話し合いの時間は多く取ってほしい。

【事務局】

- ・委員会は年4回で少なく、時間が十分に取れない可能性もあるため、任意の参加ではあるが学習会の中でも積極的なご意見をいただく中で、早い段階で骨子案を示し、委員の意見を反映できるように進めていきたい。

【会長】

- ・「協働」は押しつけられる印象がある。「協働」と言われて早15年程の年月が経つが、「協働」の言葉自体は浸透していない。しかし、市民はそれぞれ手をつなぎ合い「協働」している。
- ・次回の見直しでは、基本方針のコンセプトをしっかりと見直したらどうかと思う。
- ・委員会だと議論が足りないなので、学習会にはぜひ積極的に参加していただきたい。

【委員】

- ・協働について知っている市民はごくわずかだと思う。市民に輪を広げられないかと考えている。計

画冊子の協働の定義はまさにその通りであり、私たちの目指す地域である。

- ・SDGsの11番目（住み続けられるまちづくりを）と17番目（パートナーシップで目標を達成しよう）があり、困りごとや悩み事を行政と一緒に解決していく、そんなまちづくりができればいいと思っている。

【委員】

- ・市民はこういう計画があることを知らないしわからないと思う。地域の小さなつながりが大きなつながりになると考える。自分たちの身近なところから知ってもらうことが大事だと思う。

【委員】

- ・団体に1つ加入していて7年経つが、私以下の年齢の人はいない。若い人は活動できる時間がないため、活動をどうつないでいくかが課題。
- ・区でやっていることはまさに協働。しかし、区も役員のなり手不足や区加入者の減少が大きな課題である。
- ・計画には、具体的にこういうことをしてみませんか、という部分が求められると思う。
- ・この計画は、総合計画に基づいてのトップダウンか、この委員会で議論したことがボトムアップされ、総合計画に反映されるのか。それにより扱い方が変わる。

【事務局】

- ・基本的にはボトムアップである。総合計画はこうした個別計画に基づいた中で策定していくものであるが、総合計画の方が先に策定されるため、調整しながら策定を進めたい。

② 先進地視察研修について

※事務局から視察先候補地について説明

※候補地として、飯田市、駒ヶ根市を決定。視察時期はできるだけ早い時期で調整。

③ その他（特になし）